

◇道徳教育について(4)

道徳の教科化は、評定や免許の関係で見送りとなりましたが、教科化は無理でも、教科書(副読本)を国として作成することは可能であると思います。全国公募で材料を集めたら、かなり立派な教科書ができるのではないかと思います。

道徳の時間は、各種教育活動で行われた道徳教育を補充・深化・統合する時間とされていますが、机上の空論のように感じています。教科や総合的な学習の時間、特別活動、部活動などで、どんな道徳教育が行われたか、教師は把握できないはずです。それなのに、補充・深化・統合する授業がどうしてできるのでしょうか。そして、生徒はどのようにして深化・統合するのでしょうか。

以前私は、道徳の授業が道徳的価値の追求に流れすぎていると述べました。道徳的価値を学習するのが道徳教育と考えれば当然なのかもしれませんが、人間愛、思いやり、向上心、公德心、友情、愛国心、平和、勤労、自然愛護、感謝、生命尊重、謙虚など、道徳的価値を確認して何になるのでしょうか。道徳的な価値の追求は、美味しい料理に使われた食材や調味料を解明するようなものです。適度に食材や調味料を使い、上手に調理しなければ、美味しい料理はできません。人の生き方だって同じではないかと思います。

◇新通信票

20年度から、市内共通のものから現在の通信票に替えました。通信票は、生徒を励まし伸ばしていくためのものであり、生徒にとって分かり易いものでなければなりません。また、教師にとって記述し易いことも大切です。24年度から使用する通信票は間もなく完成しますが、今度こそ誰もが納得できるような通信票にしたいものです。

◇学校集会(6月21日<利己主義は…>)

信じられないような事件が連日報じられています。日本はどうなってしまったのか、この国は腐っているのではないかと感じてしまうくらいです。こうなってしまった原因を数え上げたら、恐らくきりが無いと思いますが、大きな原因に思っていることがあります。それは利己主義です。

つくづくこの国は身勝手な考え、利己主義がはびこっていると感じています。報道される事件の多くは、突き詰めると、皆さんのため、世の中のためがなく、自分さえよければとの意識が潜んでいるように思います。

詐欺や窃盗、強盗、性犯罪、資産隠し(脱税)など、どう考えても、自分さえよければとの気持が大きく関わっているように思います。被害者や家族の深い悲しみ、怒り、悔しさ、そして、深い傷を負って悩み苦しむ姿を思い浮かべたら、絶対にできることではありません。自分さえよければという心は、人間の心ではありません。けだものの心です。

「西中生っていいよな」と、先生が生徒をそんな風に評価する学校はあまりないと思います。身勝手な行動をする人が多くなっているのに、西中生はそうではありません。皆さんのような生徒が大人になっていけば、この国も変わるだろうと思います

※「人間の芯になる部分が日本人に欠けてきた」といった声は、人としてのあり方を誰もが真剣に考えなければならぬ時代になったということでしょう。

あっという間に夏季休業も終わりました。激務の学期になるとと思いますが、疲労が蓄積していくことのないようお願いいたします。この国の教師や生徒は疲れていると感じています。西中学校はそうならないようにしたいものです。

◇現職教育（6月20日「トイレ掃除に学ぶ」）

「足利掃除に学ぶ会」の福田茂夫世話人代表さんを始めとする12名の皆様にお越しいただき、教職員だけでなく、実習生、生徒、保護者合わせて70名がトイレ掃除に取り組んだ現職教育は、充実感に溢れた感動の体験でした。

素手素足で便器をピカピカに磨き、トイレから学ばせていただくという姿勢は、本物であると感じました。掃除に学ぶ会の皆様には、今後とも指導をいただきたいと思っています。こんなに多くの方が、一心不乱にトイレ掃除ができる西中学校は、間違いなく県下の学校になるでしょう

※大言壮語も程々に、とのご批判も受けそうですが、学校づくりには、そのくらいの気概が必要です。何をもちて県下と判断するのか、を問われれば、転勤を重ねてきた先生方が、この学校をすばらしいと感じ、誇りに思えることをいくつも教え上げられるようになったら、それはもう県下に近づいていると思います。いろんな学校と比べ、誇りに思えることってそんなにあるわけではありません。

◇1学期終業式（7月20日<意味ある人生は>）

大学時代の恩師モリー・シュワルツと元学生が16年ぶりに再会した。そして、その後、死の床にある恩師と元学生の二人きりの授業が行われた。元学生はこの授業を本にすると、アメリカはもちろん、世界的なベストセラーとなりました。本の名は、「モリー先生との火曜日」(ミッチ・アルブム著)です。

授業の中で恩師は、「多くの方が無意味な人生を歩き回っている。それは、間違っただけのものを追いかけているからである。金持ちになる、地位や名誉を得る、高級車に乗り豪邸に住む、といったことを追い求めても、満足は得られない。人生に意味を与える道は、人を愛すること、自分の周囲の社会のために尽くすこと」と、教え子に人生を語った。

大人も子どもも、毎日が忙しくて、人生を考えられないことも多いかと思いますが、自分は何のために生まれてきたのか、どう生きていいかわからない時には、「人を愛すること、自分の周囲の社会のために尽くすこと」が、人生に意味を与える道であることを心に留めて、生きてほしいと思います。

※自己の存在に意義を見出せず、また、命の重さの自覚に欠ける青少年も少なくはないでしょう。そんな青少年には、自分の周囲の社会に尽くすことを勧めたいものです。間違いなく感謝されますし、生きる喜びを感じることができるでしょう。

◇携帯電話について

携帯電話の所持率は50% (7月調査、昨年は58%、-前は62%) でした。所持率0%を目指した取り組みの効果が現れています。携帯電話によって生徒の安全が脅かされ、心身の健康が損なわれた事例を蓄積する学校にしないためにも、今後も強い気持ちをもって携帯電話を持たない、持たせない取り組みを継続したいと考えています。